

# AABE松山大会に参加して

～アジア各国の生物教員とのふれ合い

中村学園女子高等学校  
平田 晃己

## 1. AABEとは

- ▶ **アジア生物学教育協議会** Asian Association for Biology Educationの略称
- ▶ 1966年設立の学会（NPO団体） ▶ 事務局 マニラ
- ▶ アジア諸国における生物学の教育の改善および研究の促進、国際会議の隔年開催、生物科学に関する教材、雑誌、研究論文、専門家、教師の交流の中心となる機関や連絡網の設立などが目的
- ▶ 近年の国際会議は、フィリピン2022、タイ2018、インド2016、マレーシア2014で開催
- ▶ 日本での国際会議は2008年の大阪大会以来の開催で5回目
- ▶ 会長：大鹿聖公先生（愛知教育大）  
評議員：真山茂樹先生（東京学芸大）、向平和先生（愛媛大学）

## 2. 第29回AABE（松山大会）

### ①大会テーマ

「グローバル・ウェルビーイングへの展望：教科等横断型学習における生物教育」

### ②日程・場所

2024年10月12～14日・愛媛大学（松山市）

### ③参加者

日本155名、フィリピン41名、韓国22名、インドネシア7名、マレーシア5名、インド5名、タイ2名、オーストラリア2名、台湾1名 計240名

### ④発表件数

口頭発表：56（うち日本人19）  
ポスター：71（一般51うち日本人29）（高校生20）、  
ワークショップ：7件+α

### ⑤スケジュール

- ▶ 1日目（10/12）
  - 午後：参加受付、松山城への散策
- ▶ 2日目（10/13）
  - 午前：開会式、基調講演、口頭発表
  - 午後：基調講演、口頭発表、懇親会
- ▶ 3日目（10/14）
  - 午前：基調講演、ポスター発表、ワークショップ
  - 午後：基調講演、参加国からの報告、閉会式
- ▶ 4日目（10/15）
  - エクスカーション  
～愛媛大学附属高校、とべ動物園、砥部焼窯元

## ⑥ 基調講演と参加国からの報告の内容

### 〔基調講演〕

- ▶ Society5.0時代の科学教育の変革～多様性、持続可能性、AI
- ▶ 地域課題に焦点を当てた革新的なコミュニティベースの科学技術プログラムの開発～起業家育成トレーニングの導入
- ▶ 大変革期における生物学教育（韓国）
- ▶ 日本の生物教育報告

### 〔参加国からの報告〕

- ▶ オーストラリア 持続可能性の指導
- ▶ インド 持続可能性に向けた生物科学と環境教育
- ▶ インドネシア 新カリキュラムの設定
- ▶ マレーシア 高校での大学入学前のシラバス改良～ESDやSTEMを中心に
- ▶ フィリピン 没入型技術～リモート学習での経験と成果

## ⑦ 参加した感想

- ▶ おすすめポイント
  - ・アジア各国の先生方との国際交流ができる
  - ・各国の教育の現状を知ることができる
  - ・英語のハードルは高くなくチャレンジに最適
  - ・現地の観光ができる
- ▶ 大会運営から学んだこと
  - ・郷土色を出す（懇親会、弁当、エクスカージョンなど）
  - ・グループ編成の工夫
  - ・学生による補助（高校生、大学生）
  - ・外国人参加者への寄付を募り、補助金を支給
  - ・ハラルへの配慮

## 3. 参加動機と今回の発表内容

### ① 参加動機

- ▶ 国際交流に興味があり、以前より参加したいと思っていた。
- ▶ 片山舒康先生からのお誘い。
- ▶ 大会テーマに研究内容が合致していた。
- ▶ 2023年3月の全国大会（高崎）での特別セッション「生物教育における国際交流の活性化に向けて」でのAABE松山大会の案内・紹介。
- ▶ ポスター発表の生徒指導はするが、自分には英語での発表経験がないことへのチャレンジ。

②発表内容 ※ここでは省略します

③収穫と反省点、次の大会へ向けて ※ここでは省略します

## 4. 次の大会予定

日程：2026年10～11月頃

場所：公州（韓国）

※2006年第21回大会以来  
ソウルから約1時間半  
百済の古都

